



P M技術の実用化の研究



第一小委員会

前期の反省

- 思いつきのプランとなっている

メニューの必然・必要性に欠ける

- ビジネスプランが途中でフィニッシュ

「実用域」に到達していない

- 市場アセスメントの総括不足

結果への対応方針が出ていない

今期の方向性

- 前期のパート として再スタート

中味の具体化

実用化への深耕を図る

社会的にインパクトのある提言

- プランを「実用域」に高める
- ニュービジネス発掘への伏線も

背景と目的

- **市場環境の変化**

コンサルタント技術者の調査・設計市場は減少する

- **事業の執行過程での問題点はむしろ増加**

様々な所に問題解決の潜在需要が存在する

- **コンサルタント技術者の役割**

問題解決にマネジメント技術を提供する

- **PM技術が未整備**

問題解決プロセス・役割分担・対価等を整備する

意義・期待する効果

- 事業の円滑化に貢献する
- コンサルタント技術者に活躍の場を提供する
- よって社会的な役割・地位向上につなぐ

研究プロセス

- P M技術の現状・問題点の把握
- 事業の執行過程での課題抽出
- 課題解決メニューの選定
- 望ましい役割分担の検討
- P M技術を用いた課題可決の提案
- 整備効果の整理

(シンポジウム・講演会等を併用しながら研究する)

実用化へのアウトプット

- P M技術ガイドブック
- P M技術事例集 (問題解決の事例紹介)
- 標準的な仕様
- 標準歩係(参考としての人工数)

改めて発想の原点(確認)

- 発想の原点は

問題のあるところにはこれを解決する人が必要となる

- 解決に必要なのは

従来の土木技術だけではなく、
仕組みやプロセス(=PM技術)である

- 行為を表面化し

実用化(=商品化)により、社会的コストの概念を持たせむ

具体的には(例えば・・・)

官公庁より

- 設計協議(官々・官民)の代行
- 設計成果物の審査(工事前の横並び検証)
- コンペやプロポーザルの技術審査
- 公共資産の利活用マネジメント

民間より

- 供用後のクレーム相談・技術診断
- 公共施設への運営参加支援(指定管理者制度の活用)
- 政策・構想等の支援や提言とりまとめ
-

多々想定できるが・・・

NPM、アセット、合意形成などのメジャーは別途とし、
潜在需要に着目した、ニッチの掘起こしを狙いたい・・・